

# 民児協 あこう

支えあう 住みよい社会 地域から

第 63 号 令和 5 年 秋号



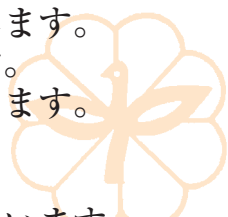
尾崎地区 秋まつり



## 民生委員児童委員行動宣言

1. 安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献します。
2. 地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します。
3. 児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます。
4. 多くの福祉課題を抱える生活困難家庭に粘り強く接し、地域社会とのつなぎ役を務めます。
5. 日頃の生活を活かし、災害時に要援護者の安否確認を行ないます。

全国民生委員児童委員連合会







# 民生委員児童委員



# 各地区活動報告

## 赤穂地区「みんな生き生き健康づくり」

赤穂地区の橋本町集会所では、「赤穂市いきいき百歳体操」が行われています。自治会長をはじめ約20名の皆さんが毎週木曜日の10時に集まり、健康づくりと交流に努め約5年になります。担当民生委員児童委員も参加し、年齢と共に低下する体力を維持し、こころと体の健康づくりとふれあいを地域の皆さんと一緒に和気あいあいと頑張っています。高齢化や地域での交流が希薄になる中で、民生委員が少しでも皆さんのお役に立てればと思っています。



## 御崎地区「研修会報告」

御崎地区地域福祉推進連絡会は、民生委員児童委員9名と地域福祉推進委員18名で構成しています。連絡会では、地域での福祉活動に役立つ内容の研修会を年間3回開催しています。今回は『ヤングケアラー』について研修をしました。最初に今年4月にこども家庭庁が発足したことや『ヤングケアラー』について簡単に説明した後、DVDを鑑賞しました。全員真剣にDVDに見入り、中には涙ぐんでいる人もいました。



## 城西地区「給食レシピ研修会で委員同士の親睦」

城西地区では、7月18日、給食レシピ研修会を開催し、35名が参加しました。給食作りを通じて、改めて「ごみの分別を考えてみよう」と計画。美化センターから講師を招き、「ごみ処理の現状と減量・分別・資源化」について話を聞きました。講演後の質疑応答では、普段から疑問に思っていることなど次々に質問。セミナーの後、会場を変えて懇談をしました。コロナの影響で約4年間、懇談の機会が持てなかったこともあり、研修会がよい親睦の場となりました。



## 坂越地区「こんにちは！友愛訪問です！」

今年の夏の友愛訪問を、酷暑が続く8月4日（金）に実施しました。汗をかきかき自治会の方、地域福祉推進委員の方、民生委員児童委員が協力して各対象者のご家庭に「こんにちは！友愛訪問です！お元気ですか？」と、元気よく声をかけて訪問すると「まあ、暑い中ご苦労様！」と、ここに顔で迎えてくださいました。お互いのちょっとした心遣いで笑顔の輪をこれからも広げていきたいと思ひます。

## 塩屋地区「活動報告」

コロナ禍の中、手作りの給食を5月から再開しました。「家庭料理が食べられる」との利用者の声が嬉しかったです。食中毒予防で7月から3ヶ月のお休みのあと10月より頑張っています。また、3年間中断していた研修バス旅行を復活しました。研修部の皆様と情緒あふれる勝山の町並み・旧遷喬尋常小学校跡などを回って交流の輪を広めました。その他にも餅配布、年2回の友愛訪問（巻き寿司・素麺）市・地区定例会と忙しい初年度でした。



## 高雄地区「『笑顔』の夏の友愛訪問」

高雄地区の友愛訪問は2月はちらし寿司とおはぎ、5月は赤飯と柏餅など地域福祉推進委員さんの手作りの品を添えて届けましたが、8月は素麺セットを持っての訪問となりました。暑い中、体調を崩されていないかと心配しましたが、とびっきり元気な『笑顔』で私たちを迎えてくださいました。近況報告の話に盛り上がり、暑さと時間の経つのを忘れ、みなさんから元気を頂いた夏の友愛訪問となりました。『笑顔』で会えるのを楽しみに民生委員児童委員、地域福祉推進委員と力を合わせていきたいと思ひます。



## 西部地区「積極的に活動」

西部地区では、今年の4月より、4年ぶりにコロナ禍以前の行事開催に取り組んでいます。自治会・ふれあいサロンなどと連携し、4月の花見会、グラウンドゴルフ大会、幼児・高齢者による七夕まつりを実施し、今後は敬老会、ふるさと祭りなどの行事開催が決定しています。給食サービス、友愛訪問などの定例行事を含め、これからも積極的なふれあい活動と見守り活動を展開していきます。



## 有年地区「食中毒防止の取組みを実施」

4月の給食サービスに合わせ、赤穂市保健センターの管理栄養士の方に来ていただき、食中毒防止の研修会を実施しました。弁当づくり作業の様子を見学してもらい感想を聞かせていただきました。後日、改めて講評と今後の取組みについて、書面にしたもので説明をうけました。かなり多くの指摘事項があり、改めて私たちの食中毒に対する意識の低さと知識不足におどろかされました。これからも絶対に「食中毒は出さない」を目標に、指摘事項の対応に取組み、地域福祉の弁当づくりを実施していきます。

## 尾崎地区「おさき盆踊り大会」

まちづくり連絡協議会主催の盆踊り大会が4年ぶりに盛大に行われました。今年の夏は全国各地で花火大会・盆踊りが行われています。尾崎さつき公園盆踊り会場には多くの方が集まり会場は熱気に包まれました。「おさてんバンド」のオープニング演奏に始まり、夜店の開店に続いて太鼓の音にあわせての盆踊りが始まりました。夏休み中でもあり、学校以外での久しぶりの集いや同窓生との再会、また親子連れ等、みなさんそれぞれ笑顔で楽しまれていました。お陰様で地域福祉推進連絡会のラムネは完売でした。



## 広報部会

今年も新型コロナの話題一色で始まり、今なお予断を許さない日々が続いています。そこに、異常気象も絡んで、世の中、混沌としているように感じます。地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来したという人もいます。今年7月の気温は、日本の観測史上、最も平均気温が高かったそうです。日本は「春夏秋冬」四季折々の中で生まれた文化がたくさんあります。きめ細やかな「おもてなし」の心もその一つです。笑顔いっぱい、待ってくださっている方々のことを思い、諸先輩方から脈々と受け継がれてきた「福祉活動」の火は、消すことは出来ません。「いずれ行く道」と心得つつ、笑顔一杯の気持ちを持ち続けていけるような、広報紙作りを今後も続けていきたいと思ひます。







## 児童福祉部会

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の第5分類に移行され、やっと徐々に日常が戻ってきました。

部会の活動もほぼ平常を取り戻し、5月には部会研修として「里親ってなあに？」をテーマに、姫路子ども家庭センターの野村武志氏に講演を行っていただき、同じく5月に部会として「親睦グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

また、今年度「子どもとの関わり」を目指して初めて取り入れた、各小学校での「車椅子体験学習」の補助参加は、尾崎・御崎・坂越小で無事終了しました。

今年度後半も、未実施の各小学校での「車椅子体験学習」の補助参加、部会研修会、地域フォーラム参加等多くの行事がありますが、子どもとの積極的な関わりを心がけ、地域社会での児童福祉の増進に努めてまいります。

## 障がい者福祉部会

昨年12月、一斉改選に伴い部会は新任、再任委員で1月からスタートしました。一つの行事計画を進めるにも手探り状態でした。5月に協力参加を予定していた精華園祭は残念ながら園内行事となってしまいました。コロナが終息しない中で障がい者の方との距離を保つ難しさを改めて感じました。

部会研修では「ALS療養者を地域で支えるためには」の講義を受けさせていただきました。介護は一人で背負い込まない、頑張り過ぎないが基本であり、地域医療サービスを利用してお互いが生活しやすい方法を見つけることがとても大切であると学びました。親睦グラウンドゴルフ大会では、日頃接する皆様とはまた違った一面、姿を見れて少し距離が近くなったように感じました。これからも部会の抱負として掲げた活動を通じ広く学び、より深く理解できるように努めて参ります。

## 高齢者福祉部会

5月11日に高齢者福祉部会内で今後発生が予想される南海トラフ巨大地震の避難生活に於ける「トイレ問題」について話しをしました。

具体的には、携帯トイレ・ペール缶・バケツ・ナイロン製ゴミ袋のほか、家族分の凝固剤・消臭剤などを各人が準備をしなければなりません。

日本では、防災対策として「自助・共助・公助」と言われています。備えあれば憂いなしです。準備しておきましょう。人間の尊厳を守るためにも重要です。

6月29日には、赤穂海浜スポーツセンターにて部会員相互の親睦を図るためグラウンドゴルフ大会を開催しました。本年度は非常に暑い日が続いていたため熱中症に気をつけての実施でした。その後は、屋外での活動は控えさせていただきました。



## 親はかけがいのない ロールモデル

「ロールモデル」とは、将来の進路や職業、ひいては、その後の人生にまで、大きな影響を及ぼす存在のこと。言い換えれば「人生のお手本となる人物」と言えるでしょう。

例えば、ある女性は、幼い頃、目の不自由なピアニストの演奏に魅了され、自身も人に感動を与える音楽家になりたいと思い、音楽家の道を志しました。また、ある高校生は、小学校時代にいじめを受けた際、担任の先生が親身になって支えてくれたことがきっかけで、自分も教師になりたいと思ったそうです。

米国の心理学者ダックワースは「もっといい人間になりたい、と思わせてくれる人はいますか。それは誰ですか。そう思う理由は何ですか」という質問に答えてもらい、ロールモデルについて研究をしました。

その結果、多くの人に共通していたのは、人のために尽くすことの尊さや、生きることの素晴らしさを教えてくれたのは、他ならぬお母さんであったということです。

そして、一つの物事と徹して向き合い、やり通す強靱な心と力を持ち合わせた人の多くは、親を手本にしているとも述べています。

家事や会社勤めをこなし、親の介護や地域の活動にも格闘している様子、そして自身の弱さや悩みとも向き合い、精一杯生きている姿を見せていくことは、子供たちにとって、大きな手本となります。

人生のロールモデル、生き方の手本は、どこか遠いところにあるのではなく、子供たちの最も身近に存在するということ、改めて心に留めていきたいものですね。

## 編集後記

今夏は「暑い、暑い」と、どれほど発して過ごしたことでしょう。

日常の挨拶言葉になっていました。

その中を、地域の皆様とのつながりに笑顔と真心で活動に励んで頂きました。

待ち遠しかった秋ですね。

体調管理に気をつけて、涼風を受けながら、一つ一つに取り組んでいきたいと思っています。